

ISOM Japan NEWS Letter

元雄良治先生 第 20 代 ISOM 会長ご就任

ISOM 会長に就任して

金沢医科大学 元雄 良治



この度 2018 年 11 月 25 日付けで国際東洋医学会(ISOM)会長を拝命しました。歴代の著名な先生方から受け継がれた伝統と、新時代を切り開く気概を持って職責を全うしたいと念じております。ISOM 日本支部の先生方には何卒ご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。

去る 2018 年 11 月 24 日～26 日の台湾・台北での第 19 回国際東洋医学会学術大会(19th ICOM)は台湾支部の努力によって盛会でした。この大会にはかなり多くの日本人の参加がありましたが、いくつかの学会と重なってしまい、毎回参加されている先生でも不参加になってしまった方もおいでました。次回以降は、さらなる広報活動を通して ICOM 参加者を増やしていく必要があります。

ICOM では中国語・韓国語・日本語・英語が使われますが、正確に翻訳されないと誤解を生じたり、発言が一部しか伝わらないこともしばしばあります。理事会も同様です。国際学会なので、基本は英語にして、どうしても英語では十分意見を述べられない、聞き取れない先生は信頼できる翻訳者を身近に置くなどの対策をして頂きたいと思えます。日本も含め、韓国・台湾の若い世代は普通に英語で意思疎通ができます。伝統医学関係者だから各国の言語でいいのだという意見も理解できますが、より良い国際交流のためにはもう少し工夫・努力すべきではないかと感じている今日この頃です。

ISOM 日本支部主催のシンポジウムやこの Newsletter を機関誌に格上げするアイデアも上がっています。ISOM のこれまでの伝統と存在意義を今一度認識して、これからの新しい時代に対応していく必要があります、そのために微力ながら貢献できれば幸いです。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

第 32 回国際東洋医学会理事会報告

名古屋市立大学 牧野 利明

11 月 25 日に台北にて第 32 回国際東洋医学会理事会が開催されました。冒頭でもご紹介したように、国際東洋医学会の理事長として元雄良治先生が就任することが承認されました。任期は 2020 年 11 月までです。韓国からの李應世事務総長は、16 年に亘り役職を務められてきましたが、今期で引退を表明しました。その後任として、韓国から宋美德大韓韓医師協会副会長を推薦したいという要望がありましたが、これまで ISOM における活動実績がなく、あまりに性急な提案のためにその場では承認されず、事務総長の席は次回理事会まで空白とすることとなりました。

また、次回、第 20 回国際東洋医学会学術総会は、韓国国内で 2020 年に開催されることが決議されました。

第 19 回国際東洋医学会学術総会（19th ICOM）開催

第 19 回 ICOM（台湾）が「The Application of Traditional Medicine in Acute and Critical Care — Prospects and Challenges（救急・重篤疾患ケアにおける伝統医学の応用 — 展望と挑戦）」という総会テーマのもと、2018 年 11 月 24 日（土）～26 日（月）の日程で、台大医院国際会議センター（台北市中正區徐州路 2 號）にて開催されました。日本からは 50 余名が参加し、全体で千名を超える（約 1,030 名）盛大な学術総会となりました。

開催 3 日間に、口頭発表 97 演題〔総会講演 4（うち日本 1）、特別招待講演 5、基調講演 15（同 2）、招待講演 42（同 3）、一般講演 31（同 3）〕及びポスター発表 195 演題（同 11）の発表があり、活発な意見交換がなされました。以下に、受賞演題を紹介いたします。

【優秀発表賞 第 2 位】

PB53 • Ryutaro Arita, Shin Takayama, Akiko Kikuchi, Akihiko Furuta, Kaoru Sato, Tadashi Ishii

Typical cases of Kampo treatment according to Yasui classification

【優秀発表賞 第 3 位】

PA01 • Shin Takayama

Clinical practice guidelines and evidence for the efficacy of traditional Japanese herbal medicine (Kampo) in treating geriatric patients

【ポスター賞】

PA09 • Yuse Okawa, Shoko Masuyama, Hitoshi Yamashita

Quality of Japanese clinical practice guidelines listing acupuncture: Assessment using GRADE system and AGREE II

PB05 • Kan'ichiro Ishiuchi, Osamu Morinaga, Takeshi Ohkita, Chuanting Tian, Asuka Hirasawa, Miaki Mitamura, Yasuhito Maki, Tomoya Yasujima, Hiroaki Yuasa, Takao Namiki, Kiyoshi Minamizawa, Toshiaki Makino

18 β -Glycyrrhetyl-3-O-sulfate would be a causative agent in licorice-induced pseudoaldosteronism

PB06 • Xin Xu, Misato Ota, Yoshiaki Tabuchi, Shao-Qing Cai, Toshiaki Makino

Mechanisms of honey-processing (蜜炙) in traditional Chinese medicine: Its inducible effects on G-CSF secretion from cultured intestinal cells

PC05 • Toshiyuki Atsumi, Yumi Yokoyama, Takami Yokogawa, Toshiaki Makino, Isao Ohtsuka

Effects of crushed schisandra fruit (五味子) on the content of lignans in Kampo decoction

第 19 回 ICOM（台湾）感想記

— 第 19 回国際東洋医学会学術総会（台湾）に参加して —

小林製薬(株) 荒井 哲也

私、大阪に本社をおきます小林製薬株式会社の荒井哲也でございます。この度、2018 年 11 月 24 日～26 日、台湾で開催されました第 19 回国際東洋医学会学術総会に、本学術総会の会頭 Wang-Chuan Chen 先生と会長 Jaung-Geng Lin 先生より、基調講演を仰せつかり参加してまいりました。

学会開会式には厳重なセキュリティーの下、台湾の副総統 陳建仁氏 (Mr. Chien-jen Chen)、立法院 院長 蘇嘉全氏 (Mr. Jia-chyuan Su) や衛生福利部 部長 陳時中氏 (Mr. Shin-chung Chen) らも参列し、台湾国内の伝統医学に対する期待を感じました。



開会式での記念撮影



講演後の賞状授与

私は OTC 漢方生薬製剤の研究開発者ですので、基調講演のタイトルは、"OTC Kampo and crude drug in Japan"とさせていただき、日本の医薬品の承認審査と OTC 医薬品の役割を述べさせていただきました。また、漢方薬 防風通聖散に焦点をあて、学会テーマの一部の "Critical Care" と結びつけ、肥満症を改善する事が重篤な疾病や後遺症の原因となる生活習慣病の予防になる事を解説いたしました。防風通聖散に関しては、私どもの研究事例の中から肥満症改善に関する薬理作用について解説し、講演を終えました。講演終了後、会場から幾つか質問を受け、生薬製剤の基礎についても関心が高まってきている事を実感しました。漢方・生薬製剤は、その作用機序の科学的解明に伴い使用も拡大している状況にあり、今後、研究が進む事で、更に活用と応用の範囲が広がっていくと感じています。

この度は、私のような者に斯くも光栄な役目をいただきました事、心から感謝いたしております。

私自身、本学術総会に参加し、台湾・韓国の伝統医学に対する期待と、力の入れ様を生々しく感じています。伝統医学の可能性を確信し、活用の拡大を志す者として、積極的に活動していきたいと感じています。以上、簡単ではございますが、ご報告申し上げます。

諸先生方のご活躍と、国際東洋医学会の発展を祈念いたしております。これからも何卒よろしく願い申し上げます。

— 第 19 回国際東洋医学会学術総会@台北に参加して —

松花堂マツヤ薬局・東邦大学医学部東洋医学研究室 榎木 司 えのき つかさ

去る 11 月の 24 日から 26 日の 3 日間、台北で開催された国際東洋医学会学術総会に参加して、"Influence of water properties on the contents of aconitine-type diester alkaloids in the decoctions of unprocessed aconite root"の演題で口頭発表を行ってまいりました。会場の台大医院国際会議中心は台北駅からほど近く、そのモダンで清潔な雰囲気から、結婚パーティーの会場としても人気が高いとのこと。学術総会の会期中にも何組かの幸せそうな新郎新婦のお姿をお見掛けする機会がありました。さて、盛大な歓迎酒会翌日の 25 日早朝、会場周辺には物々しい黒塗りの警察車両と多数の警察官の姿。何かと事情を訊いてみますと、学会開幕式の来賓として中華民国副総統がご来駕されたとのこと（もしも前日の統一地方選で与党が勝利していたら蔡総統本人が来られたのかも??）。取材のテレビクルーも多く来場しており、台湾国内での注目度の高さが感じられると同時に、東洋医学の分野に公の注目が集まりにくい我が国の状況を引き比べて、たいへん羨ましく思われました。



今回筆者が行った発表は、未修治トリカブト塊根生薬に由来するアコニチン型ジエステルアルカロイド (ADA) の煎液中濃度が、煎煮に用いる水、特に日本と中国の水質差によりどのような影響を受けるかを調べたもので、中国大陸の水（硬水）では、多く含まれている炭酸水素イオンの pH 緩衝作用により ADA 濃度が（日本の水に比べて）有意に低値になることを報告しました。同じセッションの他の発表は全て臨床的な内容で、分野の異なる筆者の発表にフロアが若干面食らった気配を感じましたが、それでも冒頭、拙い中国語でご挨拶したときには、思わぬ大きな拍手を頂戴し、台湾の方々の温かいお気持ちにあらためて感動と感謝を覚えました。

末筆となりましたが、今回の発表を恙なく終えることができたのは、ひとえに牧野利明先生、はじめ尊敬してやまぬ諸先生方のご指導のおかげでありました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

また、発表当日たいへんお世話になりました学会事務局の陳小姐に深く感謝申し上げます。



ISOM Japan ニュースレター 2018 No. 1
発行日 2019年2月6日
編集者 ニュースレター編集委員会
発行者 大山雅義
発行所 国際東洋医学会日本支部 (ISOM Japan)

国際東洋医学会日本支部 ISOM Japan

名古屋市瑞穂区田辺通3-1
名古屋市立大学薬学部生薬学分野内
TEL&FAX 052-836-3416
E-mail: isomjapan@gmail.com
ウェブサイト <http://isomjpn.umin.jp/>